

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 165号

平成28年1月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「小西芳之助金曜会・同志会日誌語録」より (14)

“主は我が救い主” は、祈りの極点

天国に行けると思うものがキリスト者であり、それを思わないものは単なる求道者であるにすぎない。汝等光の子。この世に望みはない。大なるもよし、小なるもよし、長なるもよし、短なるもよしである。パウロはこの世をば糞土の如しと言っている。誰でもできることである。伝道師になることはできない。信者がまずいのは牧師のせいである。…

「自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」(ロマ書 10 章 9～10)

“主は我が救い主”であるということが祈りの極点である。これにも常に祈りをしなければならない。信仰—主は我が救い主と信じ、自分の義務とすることをやるということが愛である。詳しくは金沢常雄先輩（大7）の著書を読まれんことを進める。私が君らの時代に頭に叩き込むような人がいなかったことは残念である。どうか諸君日々の義務をやってくれ。エペソ書5章の“主にならえ”ということについて今日は語った。

（昭和42年6月23日 金曜会）

信者には先生がいる

夏休み前最後の金曜会に当って、キリストの話を聞き出してから 50 年、聖書を人に述べ伝え出してから 20 年になるが、その経験からキリスト教の中心を述べよう。

パウロの言う如く神の啓示は我々の知恵をもってしては分からない。しかし信じることによって実践することはできる。このことが中心である。そのためには神の言葉を語る人が重要である。それを聞いて信じて行動することがよいのである。故に信者には先生がいる。ある意味では分からぬことを信じたとして信仰を築くべきである。親鸞は法然の言を信じてこれに全てを任せたと言い伝えられる如くである。

“信仰せい”はどこにも書いてあるし、誰でもそう言う。しかし“これぞ”というものを“これぞ”という先生から聞いて、“これだ”と思ひ飛び込んで、知恵で分からぬものを信じなければならない。

(昭和 42 年 7 月 7 日 金曜会)

金沢常雄氏のこと

私は 50 年前の献堂式をした人たちを知っているし、今ここに新しい同志会の君達を知っているわけである。金沢常雄氏はここを卒業して伝道者となった NO.1 である。君達に希望することは君達の内 1 人でも良いから天国に行くという望みを持って欲しい。1 人でよい。金沢常雄氏が第 1 号の「信望愛」を私に送ってくれたことを覚えている。これには希望と書いてある。人生は希望である。百年記念の時には、こういう希望を持った人々が証しをして欲しい。私はこの 10 月の第 3 日曜日に教会に行き始めてから 50 年になる。今日は教会生活後半世紀の第 1 日目である。50 年すると少しは信仰に進歩が見えてくるものである。

(昭和 42 年 10 月 20 日 金曜会)

力は天国へ帰るという望みから出てくる

宗教の本質からすると、政治問題は応用問題である。応用で異なっても良いではないか。principle はあくまで天国に行くことである。宗教の本質は死を恐れないことである。西郷さん曰く「命、金、名誉など欲しくないという人が最も始末がわるい」と。death を conquer することである。このことは罪の問題。Jesus 復活に関わってくる。諸君は難しい理論などいらぬ。50 年後まで、一人が必ず希望を残して欲しい。

希望は力である。死んだら天国へ帰るというのが Jesus の力からであったし、Paul の力であった。その力は天国へ帰るという望みから出てくる。この力の source を人々は知らないのだ。

Man's life does not consist of his possessions. (人の命は、その人の所有するものによらない。)人間の生命は、この possessions 以外のものによって霊的に生かされるのである。

(昭和 42 年 10 月 20 日 金曜会続き)

信仰は聞くことから始まる

信仰は自分で求めるものではない。自分の力ではない。自分の前に落ちてくる義務を忠実にやっておればよい。聖パウロは「信仰は聞くことから始まり、聞くことは神の言葉による」と言われた。与える意志は神様にある。道元は鎌倉を止めて福井の永平寺に行く。志のある人は、どこまでも求め従って行く。1918年（大正7年）柏木からYMCAへ説教に来られた内村先生、私はその時偶然に捕まった。

（昭和43年5月10日 金曜会）

洗礼の勧め・お願い・僕の一生

今日5月31日は、私の70歳の誕生日である。3つの話をしたいと思う。①おすすめ ②おねがい ③僕の一生

① お勧め—洗礼の勧め。今まで50年の生活（6月2日は受洗50周年の日）で人に洗礼を勧めたことはなかった。しかし1968年正月からの半年間にわたる病気により心境が変化した。信仰はの人間側の決心、求道心、聖書の勉強によるのではなく、神が下さるものであると分かった。それはキリストの言葉を謙遜に学ぶことから来ると分かった。賜物はキリストの言葉、聖書の言葉からくる。

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。（ロマ書10章17）そやから聖書を学ぼうという気になったら洗礼を受けよと勧めたい。自分の心がどうだろうかだろうかとか、何とか言うのは考えないでよい。本当にこれから聖書を学ぼうという気があるなら、明日明後日にも洗礼を受け給え。聖書を勉強しなかったら、牧師でもなんでも地獄に行くぜ。牧師、伝道師でも真剣に聖書の勉強をしていない。内村先生は聖書の勉強だけをしていた。これはよかったと思う。信仰は洗礼より来ると聖書に書いてあったら教えて欲しい。

イエス様守って下さいと毎日祈る。守ってくれるか出来ないか知らんよ。ただ聖書の中でイエスが祈れと言っているから祈るのである。洗礼を受け給え。無条件に受け給え。御言を学びたいという気持ちだけでよい。御言を聞くことが大事である。やめたら駄目。日曜だけぶらぶら教会へ行っても駄目である。洗礼を受け給え。

② お願い。今日は 70 歳の誕生日。今晚皆さんに苺を御馳走する。君たちも 70 歳になったら同志会に来て苺の御馳走をしてくれ給え。これがお願い。

③ 70 年の生涯を省みて。平凡でした。今も平凡な教会である。しかし平凡な 70 年の中でイエスは十字架の贖いの信仰を与えられた。平凡な 70 年の生涯、僕は僕なりに正直な勤勉な生活を続けて来た。

キリストは自分が神の子であるという言葉を与えられた。これがキリストである。キリストは生まれつき神の子である。しかし我々はキリストの十字架により神の子とされた。それが違うだけであとは同じである。我々の信仰の根拠は聖書にある。信仰は外国語の勉強と似たところがある。毎日やらなきゃいけないということだよ。

(昭和 43 年 5 月 31 日 金曜会)

一つの聖句に人生をかけよ

私の信心はキリストを信ずることである。聖書の言葉を通して。言葉を信じている。私の信仰は実に簡単。聖書が私にとって大きな存在である。Bible を死ぬまで離すな。Bible は自分で読むと我流になり好きなところしか読まぬ。註解書を読む必要がある。死ぬまで Bible を学び続けることができたなら、それだけで同志会に来た価値はある。1日3分でも5分でも良い。毎日読め。黒崎先生の註解書は、外国語の注解書に劣らぬ。

信仰 50 周年記念を祝い、自分の信じている、実行している聖句、自分はキリスト教をどう信じているかの聖句に関して、感想を書いて欲しい。私は聖句を大切にする。

神を信ずるということは何も難しいことではない。研究することではない。思索することではない。一つの聖句に人生をかける。命をかける。死ぬまで Bible を離したらいかん。10年コリント前書を毎日勉強したらその人の一生は必ず変わるであろう。Bible は実に力がある。聖霊の書である。虚心坦懐に学ぶべし。大註解書と共に毎日少しずつ学ぶべし。宗教は命の問題、道徳以上のもの、もっと真剣なものである。

(昭和 43 年 10 月 4 日 金曜日)

力は復活の望みから来る

耳が聞こえなくなったような気がする。これは不便なようで便利である。自分の好きなことをしゃべれる。此の新年会はもう数十年も呼ばれている。今年は立派なところで始めて話をします。…

イエスキリストは自分は神の子であるという信仰を持っていた。そして彼の人生が終わったら父のもとへ帰ることを望んでいた。その人生は自分の人生ではなく、父の人生であった。真・望・愛、この3つが神のこの信仰ではないだろうか。神の恵みであって、自分の努力ではない。ただ忍ぼうとしてキリストにへばりついておきなさい。そうすれば私のようになる。いや私はなってしまったのだ。

私は神の御旨によってここに来ている。我々が spiritual なものを求めるのは奇蹟だ。諸君！ 信仰は奇蹟だ!! これが確立したら、この世で恐れるものはない。たとえ死であっても神の教えるワザをできる。その力は復活の望みからきたのである。君達の側に霊的な素質を受けるのがないのは当たり前。聖霊がその力を持つ。それが我々に働いてくるので、君達はキリスト教を捨てずへばりついていなさい。私のような駄目な人間にもやってきた。君達にもやってくる。

(昭和44年1月24日 金曜会 於テモテ教会新館)